

SMILE LINK KURA

令和7年度地域連携推進会議報告

会議情報

- ・日時：令和8年3月13日 13:00～15:00
- ・場所：SMILE LINK KURA 牛川 201号室
- ・出席者：N（サビ管）、M（職員）、S（家人）、E（経営に知見のある人）
- ・欠席者：K（利用者）、K（利用者家族）、市役所職員、K（地域の関係者）、福祉に知見のある人

1. SMILE LINK KURAのサービス内容と地域連携についての紹介

・地域連携推進会議の目的

地域連携推進会議は、事業所と地域との連携を通じて、利用者と地域との関係づくり、地域の方への施設や利用者に関する理解の促進、サービスの透明性・質の確保、利用者の権利擁護を図ることを目的として開催する。会議では、事業所の運営状況等について情報共有を行い、地域の方からの意見や質問を受けながら、今後のサービスの質の向上につなげていく。

・SMILE LINK KURAの事業概要

SMILE LINK KURAは、愛知県指定の共同生活援助事業所であり、障がい者グループホームとして「ワンルームタイプ」の住居を提供している。シェアハウスとは異なり、利用者一人ひとりが自分のためのプライベート空間を持つことが特徴で、将来の一人暮らしを目指す方の自立への自信につなげることを目的としている。

・定員・居室について

定員は14名で、1階7名、2階7名となっている。

・通院同行について

体調管理や治療の継続に不安がある利用者に対し、スタッフが病院まで付き添い、受付や診察のサポートを行う。また、医師からの説明についても一緒に確認することで、安心して医療を受けられるよう支援する。

・金銭管理について

日々の生活費や必要な支払いをスムーズに行えるよう、スタッフが利用者一人ひとりに合わせた金銭管理をサポートする。無理のない金銭の使い方を支援し、安心した生活につなげる。

- ・独立するためのお手伝いについて

将来、一人暮らしや就労を目指す利用者に向けて、日常生活の自立や社会参加に必要なスキルの習得を支援する。一人ひとりのペースを大切にしながら、「自分らしい暮らし」を実現できるよう支援する。

- ・設備について

各居室にはテレビ、トイレ、エアコンを備えている。また、浴室、冷蔵庫、電子レンジ、IH調理器、洗濯機、カーテン、Wi-Fiなどの設備が整えられている。周辺には大型スーパーもあり、生活環境が整えられている。

2. 利用料金と生活環境について

- ・料金について

月額料金として、家賃38,000円、食費は朝食400円・昼食550円・夕食550円、光熱費・日用品費は使用料金のみ、駐車場3,000円とする。

モデルケースでは、家賃38,000円、食費28,500円（昼食代を含まず）、光熱費8,000円、日用品費1,000円で、合計75,500円となっている。家賃補助10,000円の場合の実質支払合計は65,500円。

- ・生活環境について

ワンルームタイプの住居として、利用者が自分の生活空間を確保しながら暮らせる環境を整えている。また、日常生活に必要な設備を備え、将来の自立した生活を見据えた支援を行うことが特徴。

3. 事業所運営に関する報告と意見交換

- ・利用者の自立支援について

将来の一人暮らしや就労を目指す利用者に対し、日常生活に必要なスキルを身につけられるよう支援していくことについて説明した。利用者それぞれのペースや状況に合わせ、「自分らしい暮らし」を実現できるよう支援する。

- ・医療面での支援について

通院同行を行い、受付や診察のサポート、医師からの説明の確認などを行うことで、体調管理や治療の継続に不安がある利用者についても安心して生活できるよう支援する。

- ・金銭管理について

利用者ごとに必要な支援内容を考え、日々の生活費や必要な支払いを無理なく行えるよう、スタッフが金銭管理をサポートすること。

- ・地域との関わりについて

地域の中で生活する共同生活援助事業所として、地域の方に事業所や利用者の生活について理解していただきながら、地域とのつながりを築いていく。

4. 今後の取り組みについて

SMILE LINK KURAでは、利用者一人ひとりが安心して生活できる環境を整えるとともに、通院、金銭管理、日常生活の自立に向けた支援などを行い、将来的な一人暮らしや就労を目指す利用者の生活を支えていく。

また、地域の中で生活する事業所として、地域との関係づくりや事業所への理解を深めてもらうことを大切に、地域の方からの意見や気づきを今後の事業運営に活かしていく。

結論

1. SMILE LINK KURAは、定員14名のワンルームタイプの共同生活援助事業所として、利用者一人ひとりのプライベート空間を確保しながら生活を支援する。
2. 通院同行、金銭管理、日常生活の自立に向けた支援など、利用者の生活状況に応じた支援を行い、将来の一人暮らしや就労につながる力を身につけられるよう支援する。
3. テレビ、トイレ、エアコン、浴室、冷蔵庫、電子レンジ、IH調理器、洗濯機、Wi-Fiなど、日常生活に必要な設備を整えている。
4. 地域の中で生活する共同生活援助事業所として、地域との関係づくりを進め、地域の方に事業所や利用者の生活について理解していただく機会を大切にする。
5. 会議で出された意見や質問については、今後の事業運営や支援の質の向上に活かしていく。

5. 所感・気づき

- ・事業所の支援内容を地域の方に知っていただくことで、障がい者グループホームへの理解を深めてもらうことの大切さを感じた。
- ・利用者一人ひとりの生活や将来の目標に合わせた支援を行うことが、自立した生活につながると改めて感じた。
- ・通院同行や金銭管理など、日常生活の中で必要となる支援が、利用者の安心した暮らしを支える重要な役割を担っていると気づいた。
- ・ワンルームタイプでプライベート空間を確保することで、利用者が自分らしく生活しながら自立に向けた経験を積める環境になっていると感じた。

6. 今後の確認事項

- ・地域の方との交流や情報共有の機会を、今後どのように継続・拡大していくか確認する。
- ・利用者一人ひとりの自立に向けた支援目標や、現在の支援状況について定期的に確認する。
- ・通院同行や金銭管理などの支援について、利用者の状況に応じた支援が適切に行えているか確認する。
- ・地域の方からいただいた意見や質問をどのように事業所運営へ反映していくか、職員間で共有・検討する。
- ・将来の一人暮らしや就労につながるよう、日常生活の自立に向けた支援内容や取り組みを継続して確認する。